1982年4月　天　気　Vol. 29, No. 4

日本気象学会創立100周年記念「天気」特別号について

「天気」編集委員長
内　田　英　治（56年3月迄）
杉　村　行　勇（56年4月以降）

明治15年5月3日，日本気象学会の前身の東京気象学会がスタートしてから，この4月で丁度100周年となる．日本気象学会の記念特別計画の一環として，この「天気」の特別号を発刊しうることを皆と共に喜びたい．

この特別号の計画に当っては，昭和54年春より計画が始められた．そして諸事情を勘案の末，今月号のようなスタイルとなり日の目をみるに至った．

その内容については，①レビュー（「この100年間における気象学上の顕著な発見とその後の発展」について今年毎月一編ずつ執筆者にフリーな立場で書いていただく），②座談会（各支部においてその地方における調査・研究活動について座談会を催していただく），③この100年にわたる通史〔75周年の時のサマリーも含む〕をまとめていただく，④「天気」28巻全部について解説，シンポジウム，論文等につき系統樹，キーワードなどによる分類をもとに総目録を作成する，の4本立てとすることになった．

とくにこれらの計画を遂行するについては，執筆者の各位，「天気」編集委員の各位，地区編集委員の各位，なかんずく，総目録につき終始企画し実行された木村竜治会員のご努力に敬意を表わしたい．また通史については河村理事がお世話をされた．

この特別号の刊行に際して，ひとくぎり（1世紀）の感を深くするとともに，これを契機に次の世代にむかって少しなりともこの特別号が役に立つように切望してやまない．そして各分野，各地方，各世代等における学問研究の末長い発展とその反省，また学問に志す者の良き交わりに多大の抱負をもつものである．

学会シンボルマーク

デザイン　佐々木　達三氏
（武蔵野美術大学名誉教授）